

石 すとーん・さーくる

No.83

発行 新潟県石仏の会(代表 星野 紀子)

事務局 〒945-0837 柏崎市三島町16-2 渡邊三四一 電話0257-22-1941

ホームページ <http://niigata-sekibutu.vox.jp>

石 仏 散 歩

道楽稻荷のこんこん様

新潟市 野尻和子

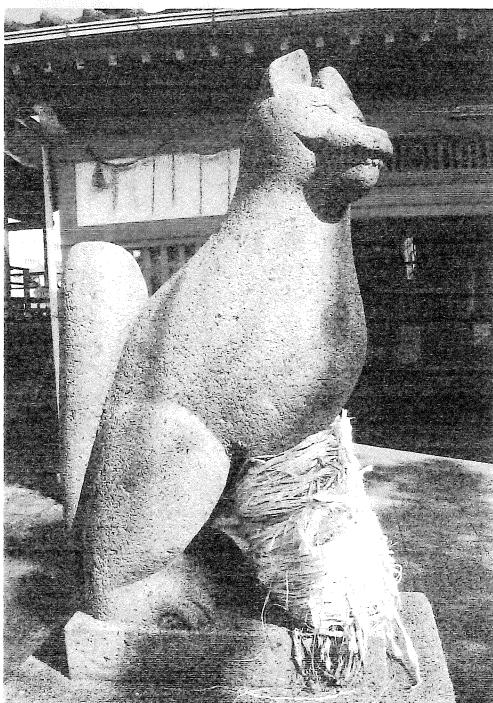
新潟市のいわゆる下町は昔、港が栄え、北前船が多く出入りしていたころは一大歓楽地としてにぎわっていました。今はその面影もなく下町としては年寄りばかりの寂れた地域になっています。

その昔の面影を求めて近頃色々下町探訪などが盛んになつてきています。その一つとして人気を集めているのが通称道楽稻荷(湊稻荷)です。ここ

があまりにも有名なのは願掛け狛犬さん。回る狛犬として願いを叶えて下さる狛犬さんと信仰厚く、

あまり回されすぎて傷みも激しく今ある狛犬さんは三代目という。新潟市民俗文化財第一号と認定されているこの狛犬さんの信仰は衰えることなく回されています。

その脇に足を縛られた狐の石造物があります。足止めのおきつねさんといわれ、昔は遊郭の遊女が逃げ出さないように、旦那が何処かに行かないようにと足を縛ったものだったそうです。ビニールの紐に足をくくられておきつねさんは特別の感じもなく見ていました。久しぶりにこの神社を訪ねて驚きました。何重にも巻かれているお



狐さんの足に！ 前にはビニール紐であつたものが麻紐に代わりその数の多さ！ 宮司さんに伺うと年間三〇〇本は下らないそうです。一年に三回ほど切り、お祓いして燃やすのだそうです。信者のお願いでお祓いした麻紐も用意することにしたのだそうです。この下町にこれほどの信仰がまだ生きていたのかとその感動に暫く浸りました。こんなにも私たち庶民は苦しみが多く何かにがらなくつては生きられない！ そんなささやかな願いを、苦しみをせめてもというそんな気持ちが切なく胸を打ちます。単なる観光名所としか見ていなかつたものが、これだけの人たちに愛され此処の大切な祈りの場であることをつくづくと知らされました。

虫神様を訪ねて

新潟市 細山 博

新潟市の阿賀野川沿いにある恙虫の神様の祠を訪ねて歩きました。

かつて堤防外で耕作していた人に小豆大の腫瘍が出来、高熱と全身の発疹で死に至るという恐ろしい病気が続出しました。これはダニの一種「恙虫」の幼虫に刺されて起こる恙虫病です。夏期に発生し、半数が命を落とすといわれている程死亡率が高い病気でした。潜伏期間が十日余りもあり、早期発見が難しく、治療方法が確立する迄は大変な難病でした。

明治末期から研究が本格的になり、昭和六年に病原が突き止められ、終戦後に抗生素質の発達で昭和二十七年から死亡



小杉の牛頭天王塔



満願寺の天王様

者はなくなりました。それ以前はこの悪疫に為す術を知らず、呪術的な方法や神仏にすがる外にありませんでした。阿賀野川両岸では約五十か所で恙虫退散祈願の祭祀が行われていたようです。

祭神は勧請した神仏によつて様々です。

右岸では濁川は「毘沙門様」、森下・高森は「虫神様」、三ツ屋では「天王様」、太子堂は「虫神様・天王様」、大迎では「權現様」、満願寺は「天王様」です。左岸では本所の「虫堂」が「恙虫犠牲者供養塔」にかかり、江口・細山・小杉は「天王様」、沢海では「七面様」等のようです。

外に未確認ですが名目所、新崎、横越東町にも「祠」があるようです。このうち今でも「虫送り」祭祀が行われているのは沢海と細山、そして三ツ屋と太子堂でも行われております。



細山地区の恙虫送り祭祀

祭祀の行われていない所でも、祠には御幣が飾られ蠟燭が立てられて今でも大切に祀られている事がわかります。現在は川の改修や公園の造成などで祠が無くなったり移されたりしておりますが、恙虫病も忘れ去られたかの様に見受けられます。が訪ね歩いてみれば今でも地域の人々に信仰され、豊穣の神としてこれからも続いていくものと思われます。

阿賀北の砂丘地帯を歩く

—新潟地区春の石仏探訪会報告—

新潟市 大木 稔爾
昨年五月二十三日(水)十時集合、今回は村上市岩船を訪れました。

岩船の柵の跡とする説のある諸上寺の裏手に、六地蔵を浮彫にした石室があります(写真①)。実はながらく所在が不明であったのですが、新潟地区有志ができるたらと思います。故小野田政雄氏によれば、室町期を降る造立ではないとのこと。



写真① 小野田政雄著
『阿賀北遺石志』所載

岩などの礫石を選んで、阿弥陀、釈迦、大日如来などの種子を刻んでいます。したがって成型加工した板石ではないので、精緻な添え彫りは困難でした。

横田の応庵寺に一〇基の板碑が屋根付きの堂宇に整然とならんでいます。以前は組石に固定されていたり、本堂の束石として転用されたり、ひどい状態だったようです。写真②は種子の部分に堂宇の束柱が乗り、すっかりえぐられて判読不能になっています。近頃は石仏の盗難が問題になっていますが昔も随分乱暴だったようです。



写真②

北新保に山形二条線で額が突出する板碑があります。種子はバンを刻んでいます。山形県の置賜地方の影響を受けたと考えられています。

弘願寺には、阿弥陀一尊及び三尊の板碑が数基残っています。キリーケの力、イーの終末を下垂させるいわゆる莊嚴体が認められます(写真③)。

宝勝寺に三基の板碑。キヤ、カ、ラ、ヴァ、アを彫り、両脇にヘアピン状に彫られたものがあります。そこにも何やら刻字らしきものがあります(写真④)。

三時半解散、参加十八名。天気晴朗。



写真④



写真③

中世色部領の、旧神林村、岩船、栗島に板碑が集中しています。緑泥片岩を産出しない当地方では、花崗岩、粗粒玄武

事務局だより

いよいよ20周年の節目の年度を迎えます。新年度は盛り沢山の行事を計画しております。左記見学会を皮切りにふるつてご参加下さい。

◇上越地区見学会ご案内

日 時 4月29日（月・祝）

9時30分～15時30分

テーマ 五智の石仏と文化財を巡る

- ①特別講座（花ヶ前盛明氏）
- ②特別拝観（国分寺奥の院大日

如来・国重文）など

集合 上越市五智歴史の里会館

（上越市国府1-18-28）

参加費 3000円（昼食代含む）

定員 40名

申込み やまだ漫歩

TEL 090-4621-4149

◇新潟地区見学会のご案内

日 時 5月24日（金）

テーマ 三国街道・中通りを歩く

探訪地 田上矢代田方面（詳細検討中）

集合 羽生駅前 10時

（解散 15時30分）

参加費 1000円

定員 15名
申込み 大木禎爾
TEL 0256-72-6913

◇平成25年度総会のお知らせ（概報）

新年度総会を左記のとおり計画しました。特に今回は20周年記念事業の具体案

をご審議頂きます。詳細及び出欠については改めてハガキでお知らせします。ご

予定にお加え下さい。

日 時 5月12日（日）10時～16時

会場 長岡市中央公民館 四〇一号室

第一部 講演会（10時～12時）

演題「佐渡の石仏」（仮）

講師 野口敏樹氏（佐渡市立両

津郷土博物館学芸員）

第二部 総会（13時30分～16時）

平成24年度事業・決算報告

平成25年度事業計画・予算案

創立20周年記念事業について

その他 総会後に懇親会も計画します。

◇創立20周年記念事業にご協力を

①「私の一押し石仏」 当会創立20周年

を記念し、今秋、新潟県立歴史博物館

で企画展「石仏の力」を開催します。

展示室前ロビーでは、当会の活動を広

く来館者に紹介するスペースを設けま

す。お手持ちの情報カードに必要事項を記入し、お気に入りの石仏写真（カラーライ・2L判）を同封の上、三月末日まで左記担当まで郵送下さいますようお願い申し上げます。

送付先 〒959-0318 弥彦村麓6592 柏原路子

②展示可能な石仏情報 前号に同封しました企画展「石仏の力」に出品可能

な石仏情報をお寄せ下さい。地元の理解が得やすく、移動可能な石仏があれば、ぜひ左記担当まで情報提供をお願いします。

〒940-2035 長岡市関原町一丁目

TEL 0258-47-6134

新潟県立歴史博物館学芸課 大楽和正

◇会費未納の方へ

24年度会費未納の方へは再度振替用紙を同封しました。至急振込願います。

★ 編集後記 ★

不安も恐怖も心配事も何もない人はいないわけで昔から変わらないと思います。石仏をながめているとそんなことを考えます。（太木）